



平成24年度 第15回

いきいき市民のつどい

記 録 集

全体テーマ

生涯学習 地域で育てる人づくり

平成25年1月26日（土）

主 催

岸和田市生涯学習推進本部
岸和田市・岸和田市教育委員会

目 次

～生涯学習 地域で育てる人づくり～

第 1 部

開会のことば（生涯学習推進本部委員長 松端孝元）・・・・・・・・・・ 1

主催者あいさつ（市長 野口 聖 [代読]副市長 出口修司）・・・・・・・・・・ 1

活動発表

● 岸和田市PTA協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

・山直南幼稚園PTA『地域との交流』 今給黎 広子 氏・・・・ 4

・八木南小学校図書ボランティア みなみちゃんとおはなしたい

『子ども達と一緒に本を楽しむ』 谷中 明子 氏・・・・・・・・ 7

・浜小学校PTA『地域ぐるみで子育て』 小亀 文子 氏・・・・ 10

● 「岸ぶら」ブロガー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

・ブロガー「ママ」 テレビ岸和田 田中 知子 氏

『誰でもできる情報発信』

第 2 部 ～語り合いと交流～

《分科会1：地域で交われ 子育ての輪》《分科会2：誰でもできる 情報発信》

分科会1-A（岸和田市PTA協議会 参加）・・・・・・・・・・ 19

分科会1-B（岸和田市PTA協議会 参加）・・・・・・・・・・ 21

分科会2-AB（「岸ぶら」ブロガー「ママ」 参加）・・・・・・・・ 24

資料編

・アンケート集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

・開催要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

第1部

—活動発表等—

開会のことば

岸和田市生涯学習推進本部 松端孝元 委員長

本日は、非常に寒い中多くの方にお越しいただき、有難うございます。「いきいき市民のつどい」は、今回で第15回目となります。本日は、発表者の方がたくさんいらっしゃいます。その方々のご紹介の時間も必要ですので、ご挨拶を簡単にさせていただきます。

いじめの問題や体罰の問題等、いろいろお話をさせていただきたかったのですが、時間に限りがございます。

どうか最後までよろしくお願いいたします。簡単ではございますが開会のご挨拶とさせていただきます。

主催者あいさつ

岸和田市長 野口聖（代読：副市長 出口修司）

皆様、こんにちは。副市長の出口と申します。本来でしたら、野口聖 岸和田市長が参りまして、皆様方にご挨拶を差し上げるべきところではありますが、あいにく他の公務の為、本日出席が叶わないことをお許し賜りたいと思います。市長からメッセージを預かって参りましたので、私から代読させて頂き主催者を代表しての挨拶とさせていただきます。

寒さが厳しいなか、いきいき市民のつどいにご参加いただき誠にありがとうございます。また、平素は本市のまちづくりにご理解とご協力を賜り心から御礼申し上げます。

さて、この「いきいき市民のつどい」は、平成10年度に「年輪のつどい」として初めて開催をいたしましてから、15回目を迎えました。生涯学習を市民とともに推進すべく組織した「生涯学習推進本部」の皆様のご協力を得て毎年開催することができております。

本市の生涯学習は、公民館などの社会教育施設だけでなく、学校などを含む様々な施設や機会をとらえて、行政と市民の皆様が協力しながらともに進めているところでございます。

しかしながら、昨今の地域教育力の低下や価値観の多様化、あるいは社会的環境の変化に伴い、新たに多くの課題が生じております。

また、いじめや虐待など子どもやお年寄りが被害者となる事件が連日のように報道され、これは少子高齢化、核家族化が進みお互いの価値観を共有できないことが要因の1つではないだろうかと思っております。

そのような中、本日のつどいでは「生涯学習 地域で育てる人づくり」を全体テーマに、「岸和田市PTA協議会」の皆様、そして岸和田市観光振興協会の公式ホームページ「岸ぶら」のブロガーの方に日ごろの活動を発表していただきます。

本日のつどいが、ご参会の皆様方にとって貴重な学習機会となることを心から期待しております。

どうぞ最後までよろしくお願いいたします。

結びに当たりまして、生涯学習推進本部委員をはじめ、開催のためにいろいろとご尽力を賜りました関係各委員の皆様にご心から深く感謝申し上げますとともに、ご参会の皆様方の今後ますますのご活躍とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



岸和田市PTA協議会

重田 隆 氏（岸和田市PTA協議会副会長・生涯学習推進本部委員）

※ 岸和田市PTA協議会 発表 司会進行

戦前の父兄会から新しいPTAの結成へと動き始めた昭和23年、本市においても各幼稚園・小中学校・高等学校ごとに単位PTAが設立されました。

翌年、公立学校園・保護者の代表と各所属の校園長でもって組織する岸和田市PTA協議会を設立し今日に至っています。

岸和田市PTA協議会では、各単位PTA相互の交流をはかるとともに、家庭・地域・学校との連携の充実を目指し、子どもたちをとりまく課題や環境の改善に取り組んでいます。

今回発表のPTAは3校のみですが、他の学校園も独自に活動をしているところがたくさんあります。PTAという枠に囚われないもの、地域の活性化に一役かっているものもあります。PTA活動が、地域での活動や生涯学習の第一歩になりうるものであると確信しております。皆さんもまず第一歩を踏み出してみてはいかがでしょうか。

〔組織・運営〕市内37学校園PTAより選出の17名で運営

（内訳：幼1名・小8名・中高4名・顧問1名・幼小中校園長会3名）



山直南幼稚園 P T A

山直南幼稚園は、園児 20 人の小さな幼稚園です。P T A も仲よく協力しながら子育てをしています。親子競技や遊びを通して保護者同士が仲良くなる「親子ふれあい広場」や地域の未就園児を招いての「冬のお楽しみ会」、また 2 月には「お別れ会」を開催しています。秋には庭園が落葉でいっぱいになるため毎朝皆で掃除するなど、いろいろな行事のなか園児が楽しい園生活を送れるよう P T A が協力しあって頑張っています。

『地域との交流』 今給黎 広子 氏

私は、長女と長男が在園しております山直南幼稚園で P T A 委員をしております。年長組が 12 人、年中組が 8 人の計 20 人です。少人数ですが、だからこそ出来る経験をいろいろしております。

その中でも、地域の方々との交流を大切にしています。

地域に出て地域の様子を知ったり、地域の方々とふれあいを持つことで、自分の住む地域は素敵な良いところだなと、子ども達が小さな頃から地域に対する愛着の気持ちが育つようにと取り組んでいます。

その活動の一つである校区めぐりでは、商店やお寺の見学で昔のお話をさせていただいたり、だんじり見学をさせていただいたりしております。

また、元 P T A で歯科衛生士の資格をお持ちの方にボランティアで、歯のブラッシング指導をしていただいたり、2 ヶ月に 1 度、地域で英語塾をされている方に英語のレッスンをさせていただいております。

次に、地域の高齢者大学である末広大学との交流をご紹介します。

末広大学の方より毎年「世代間交流」ということで、公民館での交流をさせていただいております。

まずはお互いの名前と住んでいる町名による自己紹介からはじまります。クラスや年齢

ではなく、住んでいる町を言うことはこの交流の特徴です。顔を覚えていただだけ、参加しているお年寄りの方が、町名と名前を聞いて「あその孫かなあ？」「〇〇さんところの隠居の孫かなあ？」と会話がはずみ園児に親しみを持ってもらえます。

なかなか大きな声で話せず、恥ずかしがったり、もじもじしたりする子どももいますが、温かい目で見守って下さいます。



そして、体を動かしたり、ふれ合ったりと一緒に遊びます。今年度は「じゃんけん列車」(じゃんけんをして負けた人が勝った人の後ろにつきなり、先頭がひとりになるまでじゃんけんをします) やいくつかのグループに分かれて遊ぶ「コーナー遊び」では、紙風船で遊ぶコーナーや男の子に人気だった新聞紙で巨大かぶとを作るコーナー、女の子に人気だった“あやとり”、“おてだま”、“おはじき”で遊ぶコーナーなど、帰ってから得意げに“あやとり”を見せてくれた子どももいました。



ふれあい遊びでは、お年寄りと園児が手をつなぐことがあると、小さなかわいい手を大事に撫でたり、何度も握ったりされることもありました。本当に園児達がかわいいようです。最後に、お礼として絵本と紙芝居をいただきました。

短い時間での交流でしたが、皆さん優しくあたたかく迎えてくださったので、園児たちも普段どおりに過ごすことができ楽しかったようです。

また1学期中は、老人クラブや交通指導員の方が「見まもり隊」として朝の通学路に立ってくださいます。朝の挨拶から始まり一言二言話すことで顔も覚えてもらえ、地域内で不審者の目撃情報がある中で見守っていただくということに、園児やP T Aも安心していると思います。

次に、活動の中でもう一つ「英語で遊ぼう」をご紹介します。

この活動は2ヶ月に1度ゲストティーチャーとして先生に来ていただいております。

この先生は、本園とは長いお付き合いの方で3人のお子さんが本園に通っておられました。はじめて入園したお子さんが今は中学3年生になるそうです。そういう経緯で3年前からお願いしております。

レッスン内容としては、リズムにのりながら英語の音に慣れていき、色や食べ物、乗り物など身近な英語を教えていただいております。繰り返すことで覚えていくようです。





最後に英語の絵本を読んでももらいます。すべて内容は英語ですが、よく知っている内容の絵本を読んでもらいますので、言っていることは分からなくても内容はなんとなく分かっているようです。

4歳児は、最初に英語に触れるとき、抵抗のある子もありますが回数を重ねるごとにリラックスしてゲストティチャーと関わるできるようになります。

今では、帰りに「また来てね。待ってるよ。」とハイタッチをする姿が当たり前になってきました。

人とのかかわり、地域の方とのコミュニケーションが取れるようになってきた成果だと思っています。

これからも地域に根ざした交流を大事にした山直南幼稚園であるよう私たちPTAもサポートしていきたいと思っています。

八木南小学校図書ボランティア みなみちゃんとおはなしたい

平成 21 年度より八木南小学校にて活動しています。現在、メンバーは 11 名で八木南小学校、久米田中学校の各 P T A や地域の人たちと、多岐にわたっています。

本棚の整理や本の修理、紹介、図書室壁面等の飾りつけやおたより作成など、毎週金曜日を基本に活動しています。

各学年、年 1 回のお話会では、本の読み聞かせや紹介だけではなく、図書館の利用法や調べ学習に役立つ情報を伝えています。

また、スキルアップを目指し、他団体の勉強会や講演会にも参加しています。

今後は、八木南小学校だけではなく、広い地域で子ども達と本をつなぐ活動を展開していきたいと思っています。



『子ども達と一緒に本を楽しむ』 谷中 明子 氏

みなさん！！この(右手の)うさぎちゃん、気になりませんか？なりますよね？
この子は八木南小学校図書ボランティアのキャラクター「やぎ みなみちゃん」といいます。
うさぎさんなのですが、「“やぎ” みなみちゃんです。」

今日は、緊張してしまうので一緒に手伝ってもらうように、ついてきてもらいました。

(以下、谷中氏とみなみちゃんの会話形式で活動発表。)



谷中 氏：みなみちゃん！ちょっとご挨拶して。

みなみちゃん：皆さんこんにちは。私は「やぎ みなみ」です。よろしくお願いいたします。いつもは子供たちばかりの前でお話しているから、今日は緊張するわ。

谷中 氏：みなみちゃんでも緊張することあるの？じゃあ、今日は一緒に頑張ろうね！皆様にひとつお願いがあります。みなみちゃんが話しているとき、私の口が動きますが、決して下手な腹話術ではありませんので、そこのところはよろしくお願い致します。それでは、活動の発表に入りたいと思います。

みなみちゃん：八木南小学校の図書室は、辞書や百科事典などを置いている「調べものの部屋」と絵本や読み物を置いている「お話の部屋」の2つに分かれています。本はあいうえお順や作者別などに分けて、シールやテープを貼ったり見出しを付けたりして誰にでも分かりやすいようにしています。

みなみちゃん：図書室の壁面は、季節ごとに替えたりお知らせを掲示しているんだよね。この壁面は、お正月の壁面だね。今年の干支はへびだからへびの飾り付けにしたんだよね。冬休み一生懸命作ってたよね？



谷中 氏：本の紹介の掲示や円形台には、お勧めの本や新しい本を展示しています。

みなみちゃん：八木南小学校では、本にバーコードを付けてパソコンで管理や登録をしているんだよね。そしてよく借りられている本は、いたみが激しいので補強の修理をしたりしてみんなで大切に使っています。

また1年生から6年生まで全学年でお話会をするので、学年にあった本を選んでいきます。例えば、高学年には辞書の使い方や調べ学習のお手伝いになるようなお話をします。また低学年には、図書室の使い方を紙芝居などでわかりやすく伝えます。図書館の本はみんなで使うものだから、大切に扱うということを教えています。



幼稚園では、小さい子供たちにも分かるように大型絵本やエプロンシアターなどで、楽しいお話会を心がけています。

谷中 氏：八木南小学校以外のところにも行ったよね？

みなみちゃん：春木幼稚園ではお誕生日会でエプロンシアターをしたよね？エプロンシアターって皆さんご存知ですか？エプロンをつけてお人形を持ってお芝居をしながらお話します。

それから、東岸和田のリハーブにも行ったよね？これからももっといろいろなところへ行っていっぱいいっぱいお友達を増やしていきたいと思うの。

谷中 氏：そうよね。いろんなところへ出かけてみんなに本の楽しさを知ってもらいたいよね。

このようにして、私たち八木南小学校図書ボランティアはたくさんの人に本の楽しさを広げていきたいと思っています。



浜小学校 P T A

浜の地域では、漁業を営んでいる家庭が多く、その大切な地域産業を伝えるべく、毎年5年生を対象に漁業体験（職業体験）を行っています。

子どもたちは、沖に出て魚を獲るという大変さや楽しさ、地域の特色を学び、また自分たちのために船を出したり、料理を振舞ってくれた漁師さんに感謝の気持ちも生まれます。このように学校の勉強だけでは得られない、地域ぐるみの学習もとても大切にしています。

我が家には、障がいをもって生まれてきたユニークな息子がいます。その息子と私たち家族が、どのようにすれば日々居心地よく過ごせるかを考えた結果、やはり地域と関わり、地域の人たちから理解を得ることでした。そしてそれは家族で、子ども会やP T A活動等に参加することでした。

現在、その我が子のおかげで地域の人との出会いがあり、人の温かさや有難さを知ることができ、自分自身も子どもに関わりながら周囲の人たちと共に、いろいろな個性を持つ子どもたち、大人も元気になれる地域にしなければと思うようになりました。

皆さんもぜひP T A活動や特技を活かしたボランティアを始めて、子どもたちに魅了されてみませんか？

『地域ぐるみで子育て』

小 亀 文 子 氏

●漁業体験

これまでの発表にもありましたように地域では様々なP T Aの活動やボランティアがありますが、私の住んでいる浜地域でも、この地域でしか出来ないと思われるP T A活動があります。

それは、子ども達が地域の漁師さんの魚船に乗せてもらい、漁業を体験するという事です。

沖に出てしばらくすると船酔いでグロッキーな子どももたくさんいますが、魚が網に入っているのを見て大喜びします。私も乗せてもらいましたが、大きなエイや、太刀魚、エビなどの姿もありました。浜地域には漁業を営んでいる家庭も多く、その大切な地域の産業を伝えるべく、小学校では、毎年5年生を対象に、この漁業体験が行われています。

保護者はその日、豚汁を準備し、漁師さん達は、魚をさばいてくれたり、たこめしなどを作ってくれ、船が帰ってくると、それをみんなでいただきます。子ども達はこの日、沖に出て魚を獲るという大変さや楽しさ、また地域の特色を学び、自分達のために船を出してくれ、料理を振舞ってくれた漁師さんに感謝の気持ちも生まれます。





このように学校の勉強だけでは得られない地域ぐるみの学習もとても大切なことだと思っています。

●障がいを持って産まれてきた息子のこと

私達家族が地元でもないこの地域と関わるきっかけとなったのは、「自閉症」という障がいをもって産まれてきたユニークな息子(敬ちゃん)でした。自閉症の特質としては、会話が困難なため、人とのコミュニケーションが

とれにくく、順番が守れなかったり、自他の区別がつかないため、興味があれば、よその家に勝手に入ってしまったたりして、超多動です。

彼はだんじりが好きなのですが、通学途中の家でだんじりのカレンダーを飾っているのを見ると、ついそのお家に入っていってしまい、見るに見かねてそのお家の方がそのカレンダーをはずしてプレゼントしてくれたこともありました。

また、名前を呼んでも振り返らないため、目と手が離せません。しかし、見た目が健常児と同じため、しつけの悪い子としか思われません。

つい最近の出来事ですが、おばあちゃんと彼がスーパーに行ったとき「…今日は相手がばあばだからいけるぞ!!」と思ったのか、一人自転車で逃走し(問題が生じるため、めったに一人では外へ出さないのですが)、仕事私のところへ母から「敬ちゃん居れへんようになった～」と泣きそうな声で電話があり途方にくれていると、地域の方から「敬ちゃん一人で駅の方へ向かって行ったで。追いかけていいですか?」と電話があり、「追いかけて～」とお願いしたり。

また、近所に置いてある鍵のついたフォークリフトに乗って動かしてみたりと、いろいろなことを仕出かす息子ですが、地域の方には本当にいろいろ助けていただいています。

その息子と私達家族が、どのようにすれば、日々居心地良く生きていけるかを考えた結果、やはりどんどん地域と関わり、息子のこと、障がいのことを、地域の人達にわかってもらうことでした。そして、それが家族での子供会やPTA活動等の参加でした。

●見守りボランティアの方との出会いと絵本読み聞かせ

毎朝、息子を学校まで送っていったおかげで、子ども達のことを見守ってくれている地域の人達と出会いました。雨の日も風の日も通学路に立ってくれており、いろんな人が息子のことを興味深く聞いてくれ、見守ってくれました。

そして、私も見守り隊の方に見習い、朝「おはよう」「いってらっしゃい」の声かけをするようになりました。そして先生のお声かけもあり、子ども達のために何かしたいという気持ちと、ハンディのある子ども達に対して優しい豊かな気持ちを持ってもらいたいという願いもあって、朝に絵本の読み聞かせも始めました。今では、自分自身の楽しみになっています。

そして、学校へ行ったおかげで支援学級のお友達にも偏見を持たず、ダメなことはダメ、助けのいるところは教え、手を貸してくれている子ども達の姿や、いつも子ども達とスキ

ンシップを取ってくれている先生方の姿も見て、学校はありがたいところだなと思うようになりました。

息子が低学年の頃、そのときの教頭先生が私の顔を見ると「おかあちゃん、毎日大変やな。頑張ってるな。学校では、任しときや」と声をかけてくださったので、安心して学校へも通わせることができました。分かってくれているんだなととても嬉しかったです。



●子供会参加

浜地区の子ども会は、男性が中心なところが多く、見た感じはなかなか、やんちゃそうな人ばかりですが、障がいがあることを告げた時、「よっしゃ、わかった。」とすんなりと受け入れてくれ、毎年、家族でキャンプやスケートなど、全ての行事に参加しました。

その中で、浜地区には「七町^{ななまち}の力^{ちから}」という町別対抗の運動会があります。息子が1年生の時だったでしょうか。行ったまではいいのですが、この障がいの枠を外せば、

超KY（「空気が読めない」の略）なじつとしていられない息子を、迷惑をかけてはいけなと押さえるのが必死でクタクタになっていたら、町の子ども会の育成者の男性達が、ゴールの白いテープを張り「敬ちゃん、おいで！ここまで走っておいで！」と言い放ち、私の手から解放された息子は白いテープに一直線に走っていきました。（みんなと一緒にしたかったんや・・・）その時、私より息子の気持ちをわかってくれていたんだなあと感謝し、私にとっては忘れることの出来ない素敵なワンシーンになりました。

そして、遠慮のかたまりだったこの頃と比べ、数年経った今では私自身も図々しくなり「うちの子、これ出したって！」と言っていけるようになり、去年は町の育成者の方との3人4脚。なんと周りは歓声と笑いで盛り上がりました。



●地域のみなさんとの出会い

「うちの子もハンディのある子もみんないっしょやで。でも、敬ちゃん達がいるおかげで、周りのみんなが優しくなれていると思っていつも感謝してるねん。」と言ってくれる地域の大人たちや、息子の周りに集まってきてくれる子ども達のおかげで、言葉もなく人と関わりが持てなかった息子は、6年生になった今では、毎朝友と学校へ通い「トモダチ、くるよ・・・」など、やっとの2語文、3語文ですが、片言でも言葉を発するようになり、彼の中で「友達」というものが芽生えつつあり、同時にうちの子を中心とした仲間ができ、

毎週、「敬ちゃんデー」といって 10 人くらい（それ以上の人数のときもありますが）の子どもたちが来てくれ一緒に遊んでいます。おそらく、自閉症では奇跡的な成長だと思っています。

子ども達は何くわぬ顔をしながら、大人の考え、行動を肌で感じ、じっと見えています。「大人が頑張れば子どもも頑張る。」「大人が偏見を持てば子どももそのとおり」その連動が地域性につながるのではないかと思います。

もちろん、地域の人達はうちの子だけではなく、校区の子ども達みんなを見守ってくれています。でもこのユニークな我が子がいたからこそ、地域の人との出会いがあり、人の温かさ、学校のありがたさを知ることが出来たのだと思います。

そして、今では家族も息子もこの浜地域にいととても安心が出来、居心地のいい場所になったなと思います。私自身も子ども達に関わりながら、いろんな人を巻き込んで、いろんな個性を持つ子ども達や大人も元気になって「うちの地域においでよ」と自信を持って言える地域にしなければと思うようになりました。

先ほど、山直南幼稚園 P T A の発表にありました英語を教えてくれている先生のお子さんも自閉症なので、一緒に活動したりしているのですが、その方とお話をしてもやはり地域に対して「ありがたい」という気持ちがあるので、なにかご恩返しのようなことがしたいねというようなお話をしています。

最後になりましたが、育てにくいお子さんをお持ちの方、逆にお子さんのいらっしゃらない方、ぜひ P T A 活動や、特技を活かしたボランティアを始めて、子ども達に魅了されてみませんか？

「岸ぶら」ブロッガー 「ママ」

『誰でもできる 情報発信』

テレビ岸和田 田中 知子 氏

“人情、伝統、ふれあい”…岸和田の良さを改めて地元岸和田に、そして日本全国に発信することを目的として、岸和田市観光振興協会では公式ホームページ「岸ぶら」を開設しました。

そのブロッガーのひとり、岸和田在住の明るいママ。家族はパパ、娘“にこ”、息子“さん”、犬の“てん”。“てん”はワイヤーフォックステリアです。

ケーブルテレビ&光インターネット&ケーブルプラス電話に加入してケーブルライフをエンジョイしています。

そんなちょっと楽しくて、ちょっと幸せな家族がテレビ岸和田のメッセンジャーとして日々の徒然をお話します。

皆さんこんにちは。私は岸和田市観光振興協会の公式ブログ「岸ぶら」のライターの一です。テレビ岸和田で地域情報発信を目的とした「ママのブログ」を4年前に開設いたしまして、その1年後に「岸ぶら」のお仲間に入れていただきました。

「岸ぶら」には編集長の先導があり、他のライターの方々の記事とのリンク連携もございまして協力関係の下、「岸和田ぶらぶら徒然日記」を書かせていただいております。

本日は限られた時間ではございますが、日々のページをこちらでご覧いただきながらお話させていただきます。

ブログというスタイルは、たくさんある表現方法の中の一つで、みなさんにとってそういう一つが、ツイッターでありフェイスブックであり、人によっては俳句、川柳、短歌といったものになるかもしれませんので、それらに置き換えてイメージしていただければと思います。

「岸ぶら」では、岸和田の行事や特産物がいろいろ紹介されています。

(プロジェクター画面にて、ブログ紹介)

「岸和田のソウルフード」というページを編集部で作っていただいております。この中に「包近の桃」のページがございまして、私も初夏に包近の桃選果場に取材に行かせていただきました。そのときの記事をご覧ください。

桃にはいろいろな大きさや甘さがございます。選果していく流れを書かせていただきました。桃の直売が始まるだけでも十分大きなニュースになるんですが、この日出会った方々とお話していくうちにいろんなことをお伝えしたくなってきます。





桃の種類はたくさんありますが、桃の季節は6月中旬から8月初旬ということで、非常に短いです。昨年は直売が7月末で終了してしまいました。

この間にいろいろ伝えたいことがありまして、まず気付いたのが桃の表面にある点々で、生産者の方にお聞きすると「こひばり」といって、とても糖度が高いという印だそう

で、一生懸命それを伝えたくになります。

この日の取材で、桃を使った加工品があることを知り、後日そういった食品も取上げていくこととなります。

「けろ子さん」という方が書いていらっしゃる素敵なページでは、包近の桃を使った岸和田の和菓子屋さんの桃の大福を、紹介してくださっています。

それでは、これらの特産品を使った商品の販路について偶然出会っていく様子を、また別の記事で見させていただきます。



けろさんが紹介してくださっている包近の桃を使った大福のお店は、岸和田では久米田と和泉大宮にあるのですが、大阪市西区の Newtownにもお店があり、そちらで泉州銘菓の村雨や季節限定ですが桃大福も置いています。

こういった岸和田以外のところで、だんじり以外の岸和田の顔を紹介してくれているということもノートさせていただいております。



また、包近の桃を使ったデニッシュですが、関空の搭乗エリアや新大阪駅のコンコース内で販売されることで移動する行き交う人々の目に“岸和田”の文字が飛び込んでくる様子を掲載しています。新幹線の乗場や関空、伊丹で発売しているということをお伝えしています。

このように普段追いかけてっこをしている私に家族からも嬉しい応援がたまにあります。

これは、飛行機に乗った夫が撮ったスナップ写真ですが、「空から岸ぶら」と題してこの写真にルートをなぞって書いてみました。

PRしたいこの町を、空の上から眺めて普段の行動範囲を客観的に見ることができ、遠方の方にも岸和田の風土や土地鑑まで掴んでもらいたいという思いが膨らんでいます。この写真はシートベルト着用サインが消えてからデジカメで撮影したのですが、関空を離陸してすぐ大阪湾を旋回しているときに電子機器のスイッチを入れることができないので、アナログカメラをお持ちの方も最近では少なくなっているかもしれませんが、思い切って使い捨てカメラを持って行動すると面白い写真が撮れるかもしれないねということを、家で話しています。

次に、ブログの特徴の1つである公開性についてお話しします。

ブログというのは日記をペンで綴って挿絵を描いて日記帳を閉じるというのと全く違って、更新すればインターネットの環境下であれば世界中で閲覧可能であるということです。コメントをいただいて世界も広がります。コメント投稿者は共感を持ってくださった方から新しいことを教えてくださる方まで様々ですが、真摯に内容を捉えて受け止めていきます。



「岸和田高校天体部に迫る」ということで、岸和田高校天体部の活動を取材させていただいた時の記事です。2011年3月11日の東日本大震災が起きた頃のノートで、舞い込んだコメントは、千葉県在住の方から、半世紀以上前の岸和田高校天体部の副部長であったと綴られています。地震の被害を受け出社できない日々を送りながら、故郷岸和田が連続テレビ小説の舞台地になることに気を止めパソコンに向かいカー

ネーションを検索中、このページに遭遇したといえます。後輩達が立派にやっているのを見て元気を貰いましたと書かれています。

もう一つコメントをご紹介します。これは1年前の受験期に掲載させていただいた記事ですが、（このたこすけは）合格祈願御守なんです。たこじぞう物語の解説にもつけられています。

このたこじぞう伝説を読んで、たこすけくんに魅せられた方が、今度関西旅行が実現しそうだとおっしゃってます。

記事の最後にコメント欄があるのですが、「手作



りのお店として載せられているお店が、毎週木曜日開店ということなのでそれは確かですか」という内容で書き込まれています。蛸地蔵商店街へ問い合わせまして、通常通り開店予定であることをコメント欄で返信いたしました。

一昨日の木曜日から来週の木曜日にその方が来られているのかなと思うと嬉しく思います。英語で、八本足の蛸ということで「オクトパス」から「置くとパスする」となり、今とても人気です。

人気者になった立役者さんですが、(岸ぶらのブロガーの一人である)「梅田の人」が書かれたたこすけの紹介です。またたこすけくんは岸城神社でご祈祷を受けていまして、(岸ぶらのブログの一つである)「紺善の若おかみ日記」にて詳しく書かれています。

こういったライターさんたちの記事同士のリンクを貼ることができまして、これも「岸ぶら」の魅力になっています。

個人的なことですが、学生時代のアルバイトの中で1番自分を元気にしてくれたのが、旅行代理店の仕事でした。旅行者との接点がたくさんありました。「何が見どころですか?」「いいお店はありますか?」すごいことになる。「一緒に行ってもらえませんか?」と言われる心細いご家族も出会ったりしました。マニュアルもありましたが、自分で調べてお答えすることもありました。

今、「岸ぶら」では周遊マップがトップページに出来ておりまして、カーネーションオフィシャルショップ「和撫子」の開設を取上げた記事も、マップ上で展開されます。

日々のページでは誰でも知っているようなこともノートしておりますし、全く知らない世界でも依頼があれば、自分に出来る範囲でお伝えさせていただいております。

商品購入の際は、お店の方に掲載について了解を得たり、お店の方の表情も写したり、記事を見た人のそのお店への親近感がぐっと増してくれたらいいなあという思いで書いています。

岸和田の魅力は、岸和田に住む人がそれぞれのシーンで伝えていけることがベストだと思うのですが、とっさのPRって難しいですね。食品なら地元で取れて地元で買って家に持って帰って食す。そんな当たり前の流れでもノートすることがあります。

最近の記事で挙げてみますと、皆様ご存知の水なす漬けですが、この日は「じゃこごうこ」えびじゃこ煮たもので有名なんですけれども、「水なすの胡麻和え」も忘れてはいけないとノートしました。皆さん知ってらっしゃるお料理なんです、なぜこれを載せるのかというと、仕事帰り疲れたお父さんお母さんが記事を見て「あの人がやっているんだったら私もやってみようかな」とお買い物途中に思い出していただいたりだとか、「私ならもっと上手にできるなあ」とやる気を出していただいたりという思いがあるからです。一人一人のおいしいという口コミが一番の強みだと思っております。

中には痺れる棘があって手強い魚料理もあります。下処理してくれているお店で購入していただければいいのですが、あえてそのさばく行程を漁師さんから教えてもらってやってみることもあります。

漁師さんとの会話からやってみようかなという気持ちになりまして、ご紹介させていただきました。

漁師さんや生産者さんが作るものや教えてくださるものは、本当にシンプルでおいしい食べ方でありまして、こういう料理をしていますと手際が良くなるのも快感であったりも

します。

岸和田をPRするカテゴリーは本当にたくさんありまして、もう一つご紹介いたします。

この方々は岸和田出身の歌舞伎役者さんです。

向かって右側が上村吉太朗（かみむら きちたろう）さん、左側が尾上（おのえ）みどりさんです。私自身が歌舞伎の世界を全く知りませんのでご紹介するために、関係者の方に初歩的なことを質問させていただきました。これからも勉強が必要です。

この上村吉太朗さんですが、浪切ホールで歌舞伎を観たのがきっかけで歌舞伎役者になりたいと小さいときに思われたそうです。この少年が片岡我當の部屋子になったという新聞の切抜きをいただいたことがありまして、これもノートしておきたいと思い、ゆっくりとですがルートを探しました。これからも出来る範囲でたくさんの文化をお届けできたらと思います。



最後になりますが、ブログは専門知識がなくても、自身のまたは組織の日記をネット上に更新してたくさんの方と意見交換できるツールとして急速に広まりました。より簡単なブログ更新の為に使いやすいブログツールが出来始めておよそ10年になります。はやくから始められた方は、もう10年分の記録が貯まっているんですね。

時系列でまとまっていて、検索ツールで記事をピックアップすることができるのですが、ここまで利用価値が広がるとは、ブログツールを考案した方でも、想像していなかったんじゃないでしょうか。

私自身がブログと出会ったのは6年前位です。それ以前は大阪市内で勤めておりまして、通勤時間がかかる中、子どもの学童保育の保護者会の役員になりました。心あるお母様方に励まされまして、実際にたくさん助けていただいた時期でした。現在の仕事に変わって、地元でお会いしましても懐かしくご挨拶が出来る関係です。当時は毎月活動内容を簡単に記したお便りを作った記憶が残っています。その頃ブログを知っていたらと思うこともある今日この頃です。

ブログは、記録や履歴が明瞭ですので引継ぎも楽しいかもしれないと思っています。ブログの約束事というのは、何かを的にした中傷をしない、感情を捨てる場ではないというのが基本で続けていくことになります。

それさえ守っていれば、情報発信は誰にでもできると思っています。

本日は、ご静聴ありがとうございました。

第2部

— 分科会 —

〈語り合いと交流〉

＊注）主な発言や発表などは内容等を要約しておりますのでご了承ください。

分科会 1-A テーマ：地域で交われ 子育ての輪

参 加 者	21 人	開始・終了時間	14時55分～16時
司 会		重田委員	
進行補助		永本委員・杉本委員	
記 録		川口委員	

- ・ 学校に障がい児の受け入れ態勢がなく、母子家庭の障がい児の入学に際して大変なことがあった。障がい児の母親気持ちに沿うのが大切。教師、PTAの配慮がいる。
- ・ いきいき市民のつどいの内容が地域に根ざしてきた。身近な活動の発表をどしどししてほしい。
- ・ PTA活動も最近はPTAの枠からはずれた活動が増えてきた。時間のやりくりをしてちょっと一歩踏み出せば新しい世界があることも知ってほしい。
- ・ 山直南幼稚園はこじんまりした所で自然は豊か。園庭の落ち葉掃除をお願いした。2年前にPTAの方から声をかけてくれた。職員だけでは負担が大きい。PTAと地域が一緒になることがこの地域のいいところだ。
- ・ くじ引きでPTA委員長になった。今はやってよかったと思っている。地域の方が見守ってくれているので、いつか今度は自分が地域を見守る方になっていきたい。
- ・ 子どもが少ないので親同士話す機会も少ない。委員をしたおかげで、友達や話相手ができた。
- ・ 絵本の読み聞かせの活動に参加するようになったお母さんが変わった。あまり外へも出ず一人っ子の子どもにかかりきりだったのに、自分の楽しみをみつけ、絵本選びを通して親子の会話も増えたら、子どもも変わった。
- ・ どの校区でも子育てで支えあえる「子育てサロン」がある。サロンの目標は親同士が知り合いになること。近所でも外で話すことが少ないから出て行けば地域には色々な人がいることが分かりボランティア活動も見つかる。
- ・ 24校区中20校区で子育てサロンをしている。0～3歳児で月1回、平均15～16組の参加がある。八木南では友達同士のつながりで校区外からの参加もある。赤ちゃん訪問も民生委員がしている。
- ・ 子ども会でのつながりや関わりがあるから、やんちゃな子でも挨拶してくれる。活発な活動の地域なら子どもも一時期悪くなっても戻ってくる。
- ・ 地域で餅つき大会、昔遊びなどをしている。お年寄りが多く、学校では1学年1クラスでアットホーム。
- ・ PTA会長をしているが周りの人が助けてくれた。城内地区に子育てサロンをたちあげるつもりである。いきいき市民のつどいで今までは保護者の姿が見えなかった。
- ・ 赤ちゃん訪問で地域への案内をしている。子育て中の外国人の母親にとってひつようであつても子育てサロンへの参加は難しい。生涯学習の家庭教育学級への参加者が少な

くなっている。子育ての困っていることをグループで話し合っているなので、ぜひ参加してほしい。

- ・ 自分の子どもが小さいときは子育てサロンがなかったので、出来たときは感動した。子どもにとって公園などでは禁止されていることが多く放課後の遊び場がない。
- ・ 自分の子ども時代は、外で遊びまわっていた。今の子どもたちは、子ども本来の遊びを知らず大人になるのか。普段の生活で居場所がない。
- ・ 家の前が通学路になっている。悪いことをしている子どもによく叱っている。最近は挨拶できない子どもが多い。
- ・ 子どもに声をかけても、親が睨んでくる。親のしつけもあるが、今の時代は見知らぬ大人に声をかけられても怖い時代。だから遠くで見ていて危ないときに手を貸すようにしている。
- ・ 13年前に岸和田に来た。子育て中に会ったのが家庭教育学級。障がいのある子の子育ても、その子の死も多くの人に支えてもらった。子どもの安全な遊び場を確保することが大切だと思う。
- ・ 子育てサロンへ行くと心が救われる。家庭教育学級は心の支え。
- ・ 浜地区には、人々のつながりがあり今でもそれは続いている。気持ちもわかってもらえる。成人式のときは市こ連として新成人に飲み物を配っているが、十何年たっても新成人になった子が声をかけてくれる。ボランティアには、喜びがあり達成感がある。
- ・ 育成者として若者にアドバイスできればと思っている。スポーツを通して大人とのつながりができればいい。
- ・ 市こ連では、子どもにも“自分がいなければ出来ない”との意識をもって役をしてもらっている。大人と子どもが仲良く活動している。
- ・ 山手のPTAには親密感がある。今度のPTAの全国大会では、今日の発表をしたいと思う。



参 加 者	1 2 人	開始・終了時間	1 4時55分～1 6時
司 会		大井委員	
進行補助		鍋谷委員・今口委員	
記 録		藤木委員	

- 岸和田市PTA協議会の発表者（図書ボランティアの皆さん）や中学校長も参加（以下、図書ボラ・校長と表記）

（鍋谷委員）最初に、参加者の方に今日の感想をお願いしますか。

（参 加 者）今日発表の皆さん方のお話を聞き、皆さん方はいきいきと活動をしていると思いました。私も以前PTA役員をしていたので特にそう思いました。

本日発表されていた図書ボランティアとPTA活動とどちらの活動を先に始められたのでしょうか。

（図書ボラ）PTA活動が先です。活動を始めて4年目ですが、最初は先の方が一人でひっそりとやっていました。校長先生がなかなか面白く話しやすい校長で、その校長先生に勧められて始めました。そして今こういう仲間ができました。

（鍋谷委員）校長先生によって違いがありますか。また、先生の影響や先生の勉強度合い、問題への取り組み姿勢について思うことはありますか。

（図書ボラ）影響はあると思います。

最初一人で細々と図書ボランティアをしていた頃、他の学校を回ってお話をしたとき、邪魔くさそうに対応して自分は関わりたくない態度の先生と「我々教師はどういうことをすればいいの」と積極的に聞いてこられる先生と2通りありました。

（校 長）一般の人から見ると学校は大変敷居が高く、また先生は地域の人に構えてものを言う。そのようによく言われますが、外から見た学校に対する意見はどんどん言ってください。我々は決してそんなに消極的ではありませんので。

（参 加 者）先生にもいろいろな性格があると思います。今は学校の門は施錠され、檻の中（無菌状態）で教育されている。だから先生と直接会って話がしたくてもつい電話になってしまう。電話だと顔も見えないので、モンスターペアレント化になってしまうケースも増えるのではないかな。もっとフランクに学校とお付き合いできればよいなと思うのですが。

（参 加 者）私は、市民協議会の事務局長をしています。学校に用事があるときはインターホンを押して開けてもらい、校長・教頭先生と直接お話をするようにしています。時にはコーヒーをいただき雑談もします。今後もこのようにして、コミュニケーションをはかるようにしていきたい。

（校 長）どんどん学校に来ていただきたい。地域の方が子供のためにいろいろな意見を言うてくださることは大変嬉しい。そういうことに労を惜しむことは決してしませんので。

- (図書ボラ) 最初は一人でボランティア活動をしていましたが、その後仲間が入ってきてくれました。子どもたちにもできるだけ話しかけ、次第に子どもたちもおばちゃんと呼んでくれるようになった。やはり仲間を増やし自分も楽しみながらすることで長続きすると思います。
- (図書ボラ) 私たちのほうが子どもたちにパワーをもらっています。子ども達が喜んでくれると、私たちも元気が出てきて活動にもますます力が入ります。
- (鍋谷委員) 図書ボランティアは市内小学校、全校にあるのですか。
- (図書ボラ) 図書ボランティアは、八木南だけではないです。
- (鍋谷委員) 今日発表のあった「岸ぶら」で仲間を増やせないでしょうか。
- (図書ボラ) それも今後検討します。今日は図書ボランティアのPRも兼ねて参加しました。どうぞこの学校へも行きますので呼んでください。
- (図書ボラ) いろいろな本を購入したいのですが、良い本は高く金銭的に困っています。
- (鍋谷委員) 家庭に眠っている本を利用する方法はないのですか。
- (図書ボラ) そうですね。それも考えないといけません。私たちは新入生や低学年の生徒には本の利用の仕方、楽しむ方法を教えています。高学年の生徒には、特に夏休み前には宿題の手助けになるよう工夫しています。
- (校長) 今日の発表やスライドを見て図書室の本の整理が非常に素晴らしい。子どもたちが本を見ようと思うような配置がなされている。
- (鍋谷委員) 時間も少なくなってきましたので、皆さん一言お願いします。
- (参加者) 役員をしていない人は、役員をしている人に「あの人は好きでやっている」とよく言われるが決して好きでやっているわけではない。苦勞して時間を作ってやっている。
- (参加者) 最初に子ども会の役員をして、以後各種団体の役員を続けているが、もっと色々な人に役員をやってもらいたい。
- (校長) 仕事の合間にサッカー教室のようなものをやっています。できるだけ子どもたちとコミュニケーションを図り、子どもの気持ちを汲もうと思っています。どうか学校にどんどん意見を言ってください。そして地域で学校を育ててほしい。
- (参加者) 母親のパワーとネットワークをもっと前向きに利用できる方法は無いものかと考えています。それができれば、PTA活動ももっと楽しくパワーアップできると思う。
- (参加者) 今日、皆さんの繋がりが上手くいっているように見えました。しかし地元に戻るといろいろな問題があります。例えば、青少年指導員の赤シャツを着て子どもたちに話しかけると聞いてくれますが、今日のこの服装で話しかけるとどこかの怪しいおじさんと思われてしまう。
- (参加者) 4年前にPTA役員になり、いきなり大役を言われ大変な目にあった。親と先生でフットボールのチームを作りコミュニケーションを図った。最初は親と先生が半々でしたが、今は先生が0になってしまい複雑な気持ちです。
- (参加者) 最初PTA役員をしたときは大変でしたが、やりだすと何とかなった。ゆっくり地道に少しずつ、自分に出来る範囲で活動し、仲間を増やせばよいのではない

いでしょうか。

(参 加 者) 私は、高齢で子どもが授かりました。そのおかげで学校・地域と係ることができ、仲間ができました。学校からもっと情報発信してほしい。地域の一般の方と役員・学校とが分断されているように見える。昔は小学校が地域の拠点となって、いろいろな催しが行われていました。縦と横の糸をつなぐ方法はないものか。「岸ぶら」の話を聞いて興味を持ったので今後挑戦したい。

(参 加 者) 池田小学校事件（大阪教育大付属池田小学校の殺傷事件）から時も相当に過ぎたので、学校も管理方法をもう少し緩めてもいいのではないのでしょうか。

(鍋谷委員) 大人同士が地域で輪を広げて交わっていけば、子ども同士も仲良くしなければいけないと思うようになるのではないのでしょうか。本日はみなさんありがとうございました。



参 加 者	30 人	開始・終了時間	14 時 57 分～16 時
司 会	植山委員		
進行補助	馬場委員・大森委員・出口委員・		
	植田委員・畑田委員・西田委員		
記 録	鳥羽委員・南川委員		

●岸和田市観光振興協会の公式ホームページ「岸ぶら」ブロガー「ママ」テレビ岸和田の田中知子さんのお話について補足説明と質疑応答。

(田中氏) 簡単な補足としましては、日々そんなに書くことないだろう、ネタはそんなにないだろうという話が出ることもあるんですけども、漁港の方や生産者の方など市民の方に会ってお話することで、すぐ掲載したいという意欲が湧き出てきます。湧き出てきたことを、一番みなさんの書きやすいスタイルで書いていただければと思います。ご質問等あればよろしくお願いします。

(参加者) 私はとても甘いものが好きで、新しいものが出るとすぐ買い求めたりしているんですが、話の中で桃の大福が出てきていたと思うんですが、どこで買えるんでしょうか。

(田中氏) まずは「岸ぶら」のけろ子さんが毎年書いてくださるのですけども、昔は「日月餅」さんとおっしゃっていましたが、今は「餅匠しづく」とおっしゃいます。1, 2年前にお名前が変わっておりまして、久米田と和泉大宮で老舗になっておられると思いますが、大阪西区の新町という界隈でコンクリート設計のおしゃれな空間でたまにイベントやアートなどの催しもされているそうです。

(参加者) 私はアナログ人間なのでよく分かっていないのですが、「岸ぶら」っていうのは検索したらすぐ書き込みできるのでしょうか。それとも何か登録してからになるのでしょうか。

(田中氏) ブロガーになるためにはというページがありますので、そこから志願していただきます。その後、編集部からご連絡差し上げるということになります。

(参加者) 田中さんは実在の田中さんなのか。それとも、マスコットキャラクターになるのでしょうか。

(田中氏) もともとテレビ岸和田の会社の営業ツールではなくて地域情報を発信しようとしたときに、会社がマスコットファミリーというものを持っておりまして、ママ・パパ・こどもたち・ワンちゃんたちがいるのですが、ママが書くというスタンスにしようということでママのブログになったのです。それで地域情報を書いていたら、本来の趣旨にもかなうだろうと。会社の方からも、ママは自然体でやってくればいいよと言ってくださっています。ママの年齢はとらないです(笑)。

(参加者) 私は年寄りでブログなどができませんが、若い方が岸和田をぶらぶらされてい

ろいろなことを見つけ出して、ブログで発表され岸和田のことを宣伝していることはよいことだと思う。

(参加者) ブログは地域の特産品ばかりなのではないでしょうか。文化的なものについてはどうでしょうか。

(田中氏) 文化的なページも見ることができます。ライターの中にはボランティアガイドさんもいらっしゃいます。素晴らしい歴史をたくさん取り上げているページもあります。

(参加者) 私はパソコンやメールはよく利用するんですが、twitter やブログは敬遠していました。今日話を聞いて、ブログを覗いてみようと思った。

(参加者) 初参加ですが、聞きやすい話だった。

(参加者) 私は携帯電話を持ってなくて、パソコンありません。ブログとかは耳で聞きますけれども、家の若い人になんでも任せます。関心を持ってせなあかんと思います。今日は桃や蛸の話もただ美味しいだけじゃなくて、名称の話も教えてもらって、もうちょっといろんなことを学ばないといけないと感じた。

(参加者) 「岸ぶら」のホームページがあることを知らなかったのが良かった。ブログってマメな人でなくてもできるのか。私も同窓会のホームページをつくったのですが更新するのが面倒くさくなって、写真を取り込んだりするのも手間を感じるとなかなか難しくなってくる。

(田中氏) 基本的に全てのライターさんはボランティアでされております。私の場合は、絶対書かずにいられない出来事に出会うから書くということが大きい。もちろん季節で行われる行事を必ず書くとか、歴史的なものだから書くこともとても大事です。更新頻度が多いときには、必ず人との出会いで教わったことを書いています。効率よく更新していくために、この4年で変わったことですが、写真を撮る際に、写ってしまっはいけない方や、外さないといけないものなど制約はあるのですが、できるだけトリミングという写真を切り取る作業をしなくてもいいように撮るようにはなりました。

また、企業のホームページは多くありまして、毎日見た目がすごく変わるということはないと思います。企業というのは訴えることがしっかりしていて、内容を逐一変えることは良くない部分もあります。それでも情報発信していくために、ブログを付属でつけておく。ちょっとした企業の日記だったり、社員の日記だったりをつける企業さんもあります。ブログというのは手間隙掛けずに掲載していくためのツールです。ブログは10年前頃から出てきたようです。

(参加者) 岸和田青年会議所のちきりくんは活躍していないんじゃないか(笑)。

(参加者) ちきりくんは青年会議所さんで募集をかけて作られたキャラクターで、駅前商店街で時々出没しています。なすびと一緒に。

(参加者) 「岸ぶら」のことを不勉強で知らなかった。今日帰って早速見たいと思います。私もいつか発信できたらと思います。

(参加者) 私は「岸ぶら」を良く見ます。次々にサイトをジャンプしてつい時間を使ってしまふ。お店をやっていて、その店の宣伝になる場合はいいのかもしれませんが、ぶらぶら歩いていったところを全て載せていくというのは、ブロガー個人の住んで

いる場所をある程度特定されることになると思うがどうか。

(田中氏) いいなと思ったことでも限度を超えていると思ったことは私自身自粛したりしています。一般の方は、気がついたら家のご近所のことだけ書いているということがあるかもしれません。いけないことではないのですが、私の場合は、そんなにエリアを限定していないです。ライターさんによってはあるエリアのことを頑張りたいといったような目標を持っている方もおられると思います。

(参加者) 私の知らない岸和田を他の人が良く知っている。自分自身も発信していきたいと思います。

(参加者) 初めて参加しました。岸和田を知っているようで、大雑把にしか知らなかったことがある。辞書には無いようないろんな情報があるので子どもと一緒にもっと知りたいと思いました。岸和田高校天文部の話はよかった。

(参加者) 岸和田に住んで 60 数年になります。カーネーションやだんじりといえば岸和田です。これほど地道に足を伸ばして主婦目線で発信してくれてよかった。私は山手に住んでいまして、桃や筍をもっと取り上げてほしい。

(参加者) 家庭教育学級で学んでいます。去年、市制 90 周年事業で市民劇をしたときに「岸ぶら」さんが取材してくれたのが嬉しかった。私たちの思いを汲み取っていただいて、すごく情熱をもってらっしゃると思います。自分も発信していけたらなと思います。

(参加者) 家庭教育学級で学んでいます。ブログの作成には具体的にどれだけの記事、リンク、カテゴリー、更新が必要になるのでしょうか。

(田中氏) 詳しくは編集部からの回答しかできないと思います。

作業ツールは一般的なワードプレスというソフトを使っています。更新前にはタグを入力します。キーワードを入れておくんです。桃でしたら、包近町、桃、大福、桃大福、餅匠しづく、と入れておくなど。

(参加者) 2 年位前に食育の教室で取材に来てくださり感謝しています。

(参加者) 情報発信は素晴らしい。受け取り手から見たら、商品の買える場所、行く方法、駐車場の有無などの具体的な情報があつたほうがいいのでは。

また「岸ぶら」という言葉は、他府県の人が分かるのか。サイトにたどり着くためにも、岸和田の観光と文化という枕詞が必要なのではないか。

それともう 1 つですが、街づくりの館というものがありますが、買う立場から見れば、どこで買えるのか、物の値段、駐車場の有無が分からない。そういう情報があればありがたいと思います。

(出口委員) 利用者目線になっていない点について、ご指摘ありがとうございます。いろいろなご意見・ご感想ありがとうございます。

今回テーマとして「岸ぶら」を取り上げたのには、ブロガーの方とお会いしたかったということがあります。今日田中さんと初めてお会いしました。毎回テーマは変わりますがけれども狙いとしては生涯学習、命ある限り勉強です。そのつもりで我々も頑張ってますのでよろしくお願いします。



— 資料編 —

平成24年度
『いきいき市民のつどい』
アンケート集計結果

平成25年1月

◆ 第1部・第2部の参加者人のうち、122人からアンケートの提出がありました。

Q1 この「つどい」は、平成10年度に「年輪のつどい」として開催されてから今回で15回目になりますが、あなたは通算して何回目の参加になりますか？

A. 初めて 63人 B. 2回～4回 36人 C. 5回以上 21人
(回答なし 2人)

Q2 第1部の活動発表はどうでしたか？

A. よかった 88人 B. ふつう 25人 C. よくなかった 1人
(回答なし 8人)

その他の意見 (7人)

- ・ 小亀さんの発表は良かった。(60代女性、70代女性)
- ・ 小亀さんの発表は自閉症に対する理解を深めるのに大変意義深かった。これからも頑張ってもらいたい。(40代男性)
- ・ 地域の中で助け合っているのがよく伝わりました。(30代女性)
- ・ プレゼンが楽しくて分かり易かった。素敵な活動をされている。もっと多くの市民に知ってもらいたい。(30代女性)
- ・ 岸ぶらの発表は少し分かりにくい(70代女性)
- ・ PTAの方の発表が楽しく聞けました。(40代女性)

Q3 第1部で希望される発表のテーマや発表者(団体)がありましたらご記入ください。

(9人回答)

- ・ 「子育てに絵本を取り入れよう」「幸せなコミュニケーションのために」(女性)
- ・ 民生委員(70代男性)
- ・ 岸ぶら(10代男性)
- ・ 今回あったような各地域のボランティア活動(40代男性)
- ・ 地元歴史館等の紹介(60代男性)

- ・ 浜小学校、PTA（４０代男性）
- ・ 図書館、学校図書館関係（５０代女性）
- ・ 特別支援などのボランティアで頑張っている人々（５０代男性）
- ・ 自主学習グループ はらっぱ（４０代女性）

Q 4 第２部はどちらの分科会に参加されましたか？

- A. 分科会１－A １０人 B. 分科会１－B １３人
C. 分科会２－A B １７人

（合計 ４１人、うち回答なし １人）

Q 5 第２部の分科会はどうでしたか？

- A. よかった ２８人 B. ふつう ８人 C. よくなかった ０人
（回答なし ５人）

その他の意見（４人）

- ・ 第１部のフォローが中心となり残念。地域からの発信が聞きたかった。（７０代男性）
- ・ 自分の行きたい分科会に出たかった（４０代女性）
- ・ たくさん質問できて良かった（４０代女性）
- ・ 色んな立場の人の意見や考えを聞けてよかった。（４０代女性）

Q 6 この「つどい」についてのご意見、ご感想があればお書きください。

（３５人 回答）

- ・ １番期待していた「岸ぶら」の発表はつまらなく残念に思う。PTA はみんなで子育てに取り組む姿勢が見えて良かった。（６０代女性）
- ・ このような集いは素晴らしいともいます。初めて参加しましたが、岸和田人のパワーを感じました。私も皆さんのように市民に役立つ活動を続けていきたいと思いました。（女性）
- ・ 地域の特色や情報など知ることが出来勉強になりました。（３０代男性）
- ・ 私も学校で働く一人としてPTAの方々が地域ぐるみで子どもたちの為に頑張ってくれていることがとても勉強になりました。
- ・ 地域でいきいきと活動されている方のお話が面白かったです。（３０代女性）
- ・ 初めての参加でしたが、PTAの方のお話を興味深く聞くことができ、ブログのお話もとても楽しくためになりました。（３０代女性）
- ・ 多くの方の協力で成り立ち、ありがたいことです。（５０代男性）
- ・ 岸ぶらブロガーの発表が良かった。（１０代男性）
- ・ 普段聞けない話が聞けて、とても勉強になり、自分の視野を広げるきっかけができました。（４０代女性）

- ・ H24 年 7 月号市 PTA だよりの小亀さんの記事を日々読み返しています。小亀さんが発表されるということで楽しみに来ました。家族ぐるみで地域に出て行き人々の理解と協力を求め、出会いを楽しみ、やさしさや思いやりをいただいたことでこの岸和田という土地が大好きになりました。(30 代女性)
- ・ ボケ防止のため機会があれば人の集まりに参加している。(70 代男性)
- ・ 様々な地域で多くの方々のご活躍を知ることができます。どんな場所でも素晴らしい人がいれば人と人が繋がっていくことがわかりました。私も何かやらなければと思いました。皆様の熱い気持ちが伝わってきました。(50 代男性)
- ・ つどいを機にたくさんの団体交流が生まれるといい。子どもたちへの模範となれる大人が増えるといいなと思います。(30 代女性)
- ・ いろいろな考えがあって勉強になりました。(30 代女性)
- ・ 参考になることが多く、地域に帰って役立てたい。(40 代男性)
- ・ 今回のテーマが時宣に合っていた。発信とつながり、両方やらねばならないと思った。(60 代男性)
- ・ こんな会があることを知りませんでした。また機会があればお願いしたいです。(50 代女性)
- ・ 岸ぶらを初めて知ったので、これから活用させていただきます(40 代女性)
- ・ 大変な活動を楽しそうに活動されていることに感動した。(50 代男性)
- ・ 家の中でいるより、こういう会に出掛けるのが刺激になり、少しは脳の活性化になった。(女性)
- ・ 1 部だけでも十分有意義だと思います。(50 代女性)
- ・ 2 部は必要ないかなと思いました。(40 代女性)
- ・ まあまあ良い。(70 代女性)
- ・ 岸ぶらのことが分かって良かったです。いろんな意見があるんだという感じです。(50 代男性)
- ・ 今の PTA 活動状況が分かった。田中さんの話は良く分からなかった。年を感じた。(70 代男性)
- ・ ユニークな発表があれば面白いと思います。(60 代男性)
- ・ 人と人とのつながりのツールとしてブログもあると思います。情報を取り入れるのは便利なツールですが実際のつながりはどうなっていくのかなぁと思います。(50 代女性)
- ・ 毎年楽しみで来ています。(40 代女性)
- ・ ハンデのあるお子さんを育てるには地域と繋がるのが大切。そして地域に恩返しする姿勢に感動しました。岸ぶら田中さん、これからも岸和田のために頑張ってください。(30 代女性)
- ・ みなさんの PTA 活動の楽しさが伝わりました。ブログを作りたいと思っていたので話の内容がすごく良かったです。(40 代女性)
- ・ 浜小学校の話が良かった。(70 代男性)
- ・ 市民の若い方々が色々と積極的に活動されていることを知りました。1 部で帰られる方が多い。2 部にもっと出席してくれるように考えてほしい。(70 代女性)
- ・ これから色んなことに目を向けていければと思いました。(80 代女性)

- ・ 地域の活動や皆様の話を聞くことができて良かった。(30代女性)
- ・ 人として親として、ためになる集いでした。参加できて良かったです。(30代女性)

Q7 「生涯学習」という言葉にどのような印象をお持ちですか？

(32人 回答)

- ・ 人生においていつでも学ぶことが出来る。(60代女性)
- ・ 一生勉強するもの。岸和田ではみんなで推進しているのがいいと思います。(女性)
- ・ 「元気に生きていく」イメージ。(50代女性)
- ・ 気持ちにゆとりがないと取り組めない。(40代男性)
- ・ 自分らしく生きる。生き方を探すこと。(40代女性)
- ・ 死ぬまで勉強。(20代男性)
- ・ お年寄りの勉強会。(40代女性)
- ・ 学ぶことは生きること。生きるとは学ぶこと。(30代女性)
- ・ 自分育て。(40代女性)
- ・ 難しい勉強というイメージもありますが、自分を高めるために、また成長するために必要なことだと思います。(30代女性)
- ・ 60年前の中学卒業時の寄せ書きに担任の先生が「生涯学べ」と書かれ、それ以来心掛けていた言葉、指針。(70代男性)
- ・ 定年だから、高齢だから無用という考えは、人生を捨てるようなもの。終生関わり続け、前向きに楽しまなければ損である。(70代男性)
- ・ 年齢に関係なくいろいろな活動ができる。(40代女性)
- ・ 論語の教え「学べば即ち固ならず」を実行している。(70代男性)
- ・ 自分の成長のため。(60代男性)
- ・ 学生を済んでからでも学習するのはしんどい。一生何かについて向上していきたい。
(40代男性)
- ・ 有意義な人生を送るために必要なもの(自分も幸せになり、他人も幸せにすることができる)。(50代男性)
- ・ 毎日毎日の積み重ね。着実な努力の大切さにつながるもの。子や孫に伝えたい言葉。
(70代男性)
- ・ 生きることと活かすこと。(60代男性)
- ・ 人生毎日勉強。(30代女性)
- ・ 一生勉強。(40代男性)
- ・ 市民みんなが参加できれば良い。(50代女性)
- ・ 生きている限り常に学習する。(60代女性)
- ・ すべての人が自分らしい目的を見つけて生涯学習に取り組める社会だと良い。
(50代女性)
- ・ 地域の身近なところでできるのが理想だと思います。全ての人に生涯学習を続けるチャンスが必要です。そのためにも行政が広く市民に広報活動してもらえれば。(40代女性)
- ・ ずっと続けられる活動。(50代男性)

- ・ 健やかな老い。(70代男性)
- ・ 学校を出てから社会の中で勉強すること。自分のこれからの生き方に大切なもの。
(60代男性)
- ・ 各人が自発的意思により必要に応じ自己に適した手段方法を自ら選んで、生涯を通じて行うものですが、施設・機会等は「公」の機関に保障してほしいと思います。
(50代女性)
- ・ 人間として一生懸命努力すべきものと思ってます。(70代女性)
- ・ あまり難しく考えずに何にでも着目していくこと。(80代女性)
- ・ 人間は生涯死ぬまで学習する。それによって充実した人生を過ごすことができる。
(40代女性)

Q 8 どのような生涯学習活動に取り組んでいますか？ (重複回答あり)

A	趣味的なもの	23人
B	スポーツ、レクリエーション	22人
C	家庭生活に役立つもの	11人
D	健康	14人
E	パソコン、インターネット	9人
F	福祉	9人
G	環境	7人
H	ボランティア	32人
I	育児、教育	15人
J	語学	1人
K	リサイクル	2人
L	自然体験、アウトドア	12人
M	社会問題	6人
N	P T A	19人
O	その他	2人

(回答なし 41人)

その他 (2人)

- ・ 公民館活動 (60代男性)、70代女性)

Q 9 生涯学習をしていて、困ったことがありますか？（重複回答あり）

A	時間のやりくり苦労する	36人
B	費用がかかる	11人
C	施設が遠い	7人
D	情報が分からない	7人
E	施設が使いにくい	5人
F	場所がとれない	7人
G	利用手続きや講座の申し込みが面倒	4人
H	仲間がいない	2人
I	周りの理解がない	3人
J	きっかけがつかめない	1人
K	その他	3人

（回答なし 70人）

その他（2人）

- ・ 自分でできることをしているので、別にありません。（40代女性）
- ・ 中央図書館の設備の充実（70代男性）

Q10 あなたの性別、年齢

男：52人 女：65人 年代無回答：8人 性別無回答：5人 合計：122人

年代 \ 性別	性別			合 計
	男	女	無回答	
10歳代	1	0	0	1
20歳代	1	1	0	2
30歳代	1	16	0	17
40歳代	16	25	0	41
50歳代	14	10	0	24
60歳代	6	7	0	13
70歳代	13	2	0	15
80歳代	0	1	0	1
無回答	0	3	5	8
合 計	52	65	5	122

Q11 今回のこの「つどい」を何でお知りになりましたか？（重複回答あり）
（回答なし 12人）

A	市の広報（ホームページ）	9件
B	情報紙（市の広報以外）	8件
C	チラシ・ポスター	21件
D	知人などの紹介	30件
E	その他	48件

その他（48人）

- ・ 医療機関（60代女性）
- ・ ボランティア団体（60代女性）
- ・ 自主学習グループ（60代女性）
- ・ 岸和田市PTA協議会（30代女性、40代男性、40代女性、50代男性）
- ・ 所属団体（40代男性、40代女性）
- ・ 小学校からの案内を見て（30代男性、30代女性、40代男性）
- ・ 家庭教育学級（40代女性）
- ・ 文化協会（60代男性、70代男性、70代女性）
- ・ 岸和田市こども会育成連絡協議会（40代男性）
- ・ 交流委員（60代女性）
- ・ サークル（50代女性）
- ・ 学級グループ連絡会（40代女性）

第 15 回 生涯学習<いきいき市民のつどい>開催要項（案）

<開催趣旨>

生涯学習に関する活動発表や生涯学習をテーマとした語り合いなどのイベントを開催し、市民の生涯学習に対する関心を高める。また、参加者が生涯学習について考え、ふれあい、交流学習を体験し、新たなネットワークづくりの機会を提供することで、本市の生涯学習活動を一層推進する。

● <全体テーマ：「生涯学習 “地域で育てる人づくり” 」>

- 1 日 時 平成 25 年 1 月 26 日（土）午後 1 時 30 分～4 時 00 分
- 2 場 所 市立産業会館（別所町 3 丁目 13-26）
- 3 内 容 第 1 部 学習活動発表等 午後 1 時 30 分～午後 2 時 40 分

● 岸和田市 P T A 協議会 （40 分）

地域では、学校や子ども達を支えるため、多くのボランティアの方々
が活躍しています。今回は、P T A 協議会の皆さんの様々な活動
をご紹介します。

- ・山直南幼稚園 P T A 「地域との交流」：今給黎 広子 氏
- ・八木南小学校 図書ボランティア みなみちゃんとおはなしたい
「子ども達と一緒に本を楽しむ」：谷中 明子 氏
- ・浜小学校 P T A 「地域ぐるみで子育て」：小亀 文子 氏

分科会テーマ：「地域で交われ 子育ての輪」

● 「岸ぶら」ブロガー 「ママ」 （20 分）

岸和田市観光振興協会の公式ホームページ「岸ぶら」の岸ぶら
がーのひとり、岸和田市在住の「ママ」のブログは、見ていて
楽しく幸せな気分になります。特に食べ物の紹介を見ると、絶
対に食べたくなります！そんな「ママ」に岸和田メッセンジャ
ーとしての徒然をお話いただきます。

- ・ブロガー「ママ」 テレビ岸和田 田中 知子 氏

分科会テーマ：「誰でもできる 情報発信」

休 憩 午後 2 時 40 分～2 時 50 分 （参加者は分科会場へ移動）

第2部 分科会 午後2時50分～4時00分 (70分)

＜テーマ1：「地域で交われ 子育ての輪」＞

＜テーマ2：「誰でもできる 情報発信」＞

- 参加者を20名から30名程度のグループに分け語り合う。
- 分科会には学習活動発表者の方々も参加する。

- 4 目標参加者数 (1) 全体 200人
及び申込方法等 (2) 生涯学習推進本部関係団体からの参加 150人
※ 各団体は参加者名簿を1月16日(水)までに事務局へ提出する。
(3) 一般の参加者 50人
※ 電話・FAX・電子メール又は窓口のいずれかの方法により、申し込む。(住所、氏名、電話番号が必要)
なお、保育(1歳半～就学前児童及び障害児先着15名)や要約筆記・手話通訳等の希望者はその旨も申し出る。
締め切りは1月18日(金)。
※ チラシ、ポスターのほか、「広報きしわだ」等で開催案内をする。
- 5 申込及び 岸和田市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
問 合 先 岸和田市堺町1-1(市立公民館内)
電話 423-9615～6 FAX 423-3011
電子メール syogaig@city.kishiwada.osaka.jp
- 6 主 催 岸和田市生涯学習推進本部・岸和田市・岸和田市教育委員会

岸和田市生涯学習推進本部は、生涯学習のまちづくりを市民ぐるみで推進するために設けられ、委員は次の各団体から選出されています。

岸和田市生涯学習審議会、岸和田市PTA協議会、岸和田市こども会育成連絡協議会、岸和田市文化協会、岸和田市体育協会、岸和田市学級・グループ連絡会、岸和田市社会福祉協議会、岸和田市民生委員児童委員協議会、岸和田障害者・児関係団体連絡協議会、岸和田市人権協会、岸和田女性会議、岸和田市医師会、岸和田商工会議所、岸和田市町会連合会、岸和田市中学校校長会、岸和田市議会、学識経験者、岸和田市、岸和田市教育委員会(順不同)

平成 24 年度 第 15 回 いきいき市民のつどい

■ 参加者 第 1 部：210 名
第 2 部：分科会 1－A 21 名
分科会 1－B 12 名
分科会 2－AB 30 名
(計 63 名)

■ 保 育 保育児：3 名
保育者：2 名

第 15 回 いきいき市民のつどい 記録集

発 行：岸和田市教育委員会

編 集：岸和田市教育委員会生涯学習部生涯学習課

所 在 地：〒596－0072

大阪府岸和田市堺町 1 番 1 号岸和田市立公民館内
電話 0 7 2－4 2 3－9 6 1 6

発行年月：平成 25 年 3 月

